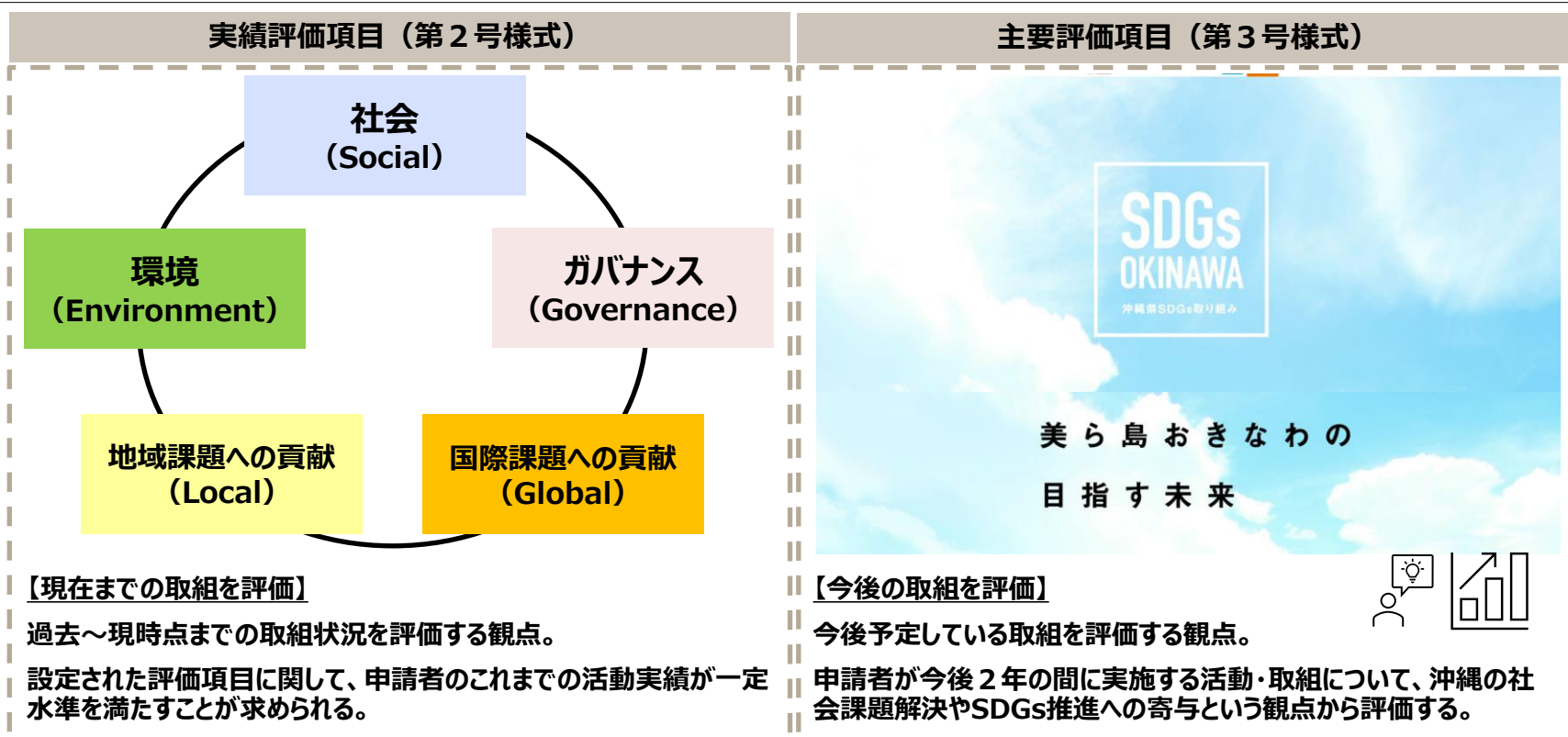


# おきなわSDGs認証制度とは

- おきなわSDGs認証制度は、SDGsの理念を尊重し、経済・社会・環境の3つの分野を意識した経営を実践する企業・団体等を認証することで、当該企業・団体等の持続的な成長及び地域の持続可能な発展を図ることを目的とする制度です。
- 本認証制度では、過去から現在までの取組に加えて、今後行う取組も評価されます。

## おきなわSDGs認証制度の全体像



# おきなわSDGs認証制度によるメリット

- 将来的な沖縄県のSDGs推進に向けて、認証を取得した団体に対しては、沖縄県・県内関係機関による連携の下、事業活動の支援に積極的に取り組みます。

## おきなわSDGs認証制度の認証取得を通じて得られるメリット



### SDGsの視点から取組状況を把握

当該申請に際して、企業・団体の代表者や管理職も含めて組織全体でSDGsに関する取組状況を整理・確認する契機となります。加えて、沖縄県内の有識者からフィードバックを得られることで、SDGsの視点から自分達の取組状況を客観視して、今後の事業計画等に活用する機会とすることが可能です。



### 沖縄県による認証団体の積極的なPR

認証を得た企業・団体は、沖縄県及びおきなわSDGsプラットフォームのホームページ等で認証団体として公表・紹介されます。その他、沖縄県による積極的なPR・広報支援が期待されると同時に、沖縄県内外の様々な企業との交流等を通じて、新たなビジネスチャンスにつながる可能性がひろがります。



### ブランドイメージ・信用の向上

認証制度を通じて実施される客観的な審査を通過し、晴れて認証を取得した団体は、沖縄県を牽引するリーダーとして積極的なイメージアップと信用向上に資することが期待できます。SDGsに積極的に取り組む姿勢と実績が評価されたことで、中長期的には採用力や企業ブランドの向上につながることも期待されます。

# おきなわSDGs認証制度に挑戦するには

- 本認証制度は、申請内容の審査を通じて認証可否が判定されます。

## おきなわSDGs認証制度の流れ

### 【Step 1】 応募開始

- 応募資料を入手・確認する。
- 認証制度がどのようなものか興味関心がある場合には、説明会に参加します。
- 疑問点を解消したい場合には、事務局が主催する相談会もご活用ください。
- (なお、相談会の希望者は別途申込みが必要。申込み後に相談日程の調整を実施。)



説明会及び相談会について  
• 募集要綱P.5～参照。

### 【Step 2】 申請

- 申請を決めたら、申請書を作成します。担当者だけでなく、関係部署の方々、管理職、経営幹部、時には外部のステークホルダーといった様々な関係者と認識をすり合わせながら作成することが重要です。
- 申請書を作成後には、様式上のチェックリストによる判定結果でエラーが生じていないかを確認してからご提出ください。



申請書の提出方法について  
• 募集要綱P.8～参照。

### 【Step 3】 審査

- 審査に先立ち、記載内容を正確に確認するために事務局によるヒアリングが実施されます。
- 申請書を提出後に修正して差し替えることは不可能ですが、補足情報や現在抱えている課題などはヒアリングでお伝えください。
- ヒアリング結果と併せて、県内有識者で構成される検討委員会により審査が行われます。



### 【Step 4】 認証 (結果判定)

- 検討委員会による審査(結果判定)が終われば、結果が申請団体に通知されます。
- 晴れて認証を取得した団体はその後に会員証の交付式等に進みます。
- 惜しくも今回は認証に届かなかった団体におかれましても検討委員会による審査結果のフィードバックがなされます。



申請団体  
アクション

主な  
使用資料

# 実績評価項目（第2号様式）の得点構成と合否基準

- 必須の項目（18項目）+ 選択制の項目（3項目）の合計21項目にて判定を実施。
- 計21項目中17項目について、項目の充足が確認された場合に合格となります。

## 得点構成・合否基準の全体像

第2号様式の評価項目		項目数
必須	社会（Social）に資する評価項目	8項目
	環境（Environment）に資する評価項目	5項目
	ガバナンス（Governance）に資する評価項目	5項目
任意に選択	地域課題への貢献（Local）に資する評価項目	6項目から 3項目選択
	国際課題への貢献（Global）に資する評価項目	
合計		21項目

# 主要評価項目（第3号様式）の得点構成と合否基準

- 上記の総合得点（75点+10点+6点+4点）にて判定を実施。
- 計95点中60点以上を獲得した場合に合格となります。

## 得点構成・合否基準の全体像

申請する取組の体系		(基礎得点)	(加点措置)		(任意の取組に限る加点措置)
最小3～最大5つの取組を申請		審査項目に基づき採点	ステークホルダーとの連携	地域課題・国際課題への貢献	ガバナンス強化の取組
申請必須	社会に資する取組×1	25点	1点	1点	対象外
	環境に資する取組×1	25点	1点	1点	
	経済に資する取組×1	25点	1点	1点	
<b>(申請必須) 基礎得点 合計</b>		<b>75点</b>	<b>(申請必須) 加点措置 合計</b>		<b>6点</b>
申請任意	いずれの分類も可×1	5点	0.5点	0.5点	ガバナンスの分類を選択時 2点追加
	いずれの分類も可×1	5点	0.5点	0.5点	
<b>(申請任意) 基礎得点 合計</b>		<b>10点</b>	<b>(申請任意) 加点措置 合計</b>		<b>4点</b>

# 実績評価項目（第2号様式）の審査観点

- 過去から現在までの取組を評価する第2号様式では、社会・環境・ガバナンス（ESG）の取組を必須で評価します。加えて、地域課題への貢献若しくは国際課題への貢献（いずれか申請団体により任意選択）も評価することで綿密に取組状況を確認します。

## 審査観点の全体像

### 審査項目

#### ①取組の実施状況が確認できるか否か

「御社の取り組みについて」の記載内容や、「証書情報」から取組の実施状況が確認できる。

#### ②取組の内容が項目に適切か否か

「評価する内容」に合致した、適切な取組（すでに実施している**組織的・制度的に整備された取組**、法律で定められた取組にとどまらない+αで実施している企業独自の取組等）が確認できる。

（組織的・制度的に整備された取組の例）

認証を取得している、社内制度を設けている、社内規定・ルールを作成している、計画を作成している、会議体や体制を整備している、外部の研修に参加している、実績が具体的（定量的）に記載されている、社外のステークホルダーと連携している

# 主要評価項目（第3号様式）の審査観点

- 将来性を評価する第3号様式では、7つの審査項目に加えて、
- 加点措置も設けることで申請団体の実態を幅広い観点から総合的に評価します。

## 審査観点の全体像

### 審査項目

#### ②【新規及び先進的な取組】

先進性を帯びており、沖縄県において代表的な事例になりうる事が期待できる。

#### ③【取組の具体性、実現可能性】

具体的な記述から、実現可能性が期待できる。

#### ①【県内の課題解決に資する効果】

沖縄県SDGsアクションプランで定める「優先課題の解決」や「SDGs推進の目標達成」に対して十分な効果が期待できる。

#### ④【取組を推進する体制】

着実に実行するための推進体制・実行体制を整備している、若しくは整備する計画がある。

#### ⑤【2030年のあるべき姿との整合性】

2030年に向けて申請団体が目指す姿と整合的な取組として評価できる。

#### ⑥【適切なKPIの設定】

進捗管理に十分に適したKPIが設定されており、活動状況のモニタリングを可視化できる事が期待される。

#### ⑦【挑戦的な目標設定】

現状の取組の継続に終始しておらず、将来に向けて積極的かつ発展的な目標値が具体的に設定されている。

### 加点措置

#### 【ステークホルダーとの連携】

沖縄県内外のステークホルダーとの連携により実現されている、若しくはステークホルダーとの連携を促進するために効果的である。

#### 【県外課題・国際課題への貢献】

沖縄県内で収束するものでなく、沖縄県外（国内）の課題や国際課題の解決に資する。

### 任意の取組に限る加点措置

#### 【ガバナンス強化の取組】

ガバナンスの向上に資すると評価できる。